

東北支部 第 59 回学術大会 報告

(第11回東北放射線医療技術学術大会)

実行委員長 村上 克彦

COVID-19パンデミックの中、昨年は大会を中止せざるを得ない状況でしたが、インターネットを活用した技術の普及と、感染状況が落ち着いていた事から、令和3年10月30日、31日の2日間、新里 昌一大会長(太田総合病院附属太田西ノ内病院)のもと、福島県立医科大学保健科学部 福島駅前キャンパス及びインターネット上のVirtual空間(oVice)において、第59回学術大会(第11回東北放射線医療技術学術大会)をハイブリットにて開催し、大会終了後にオンデマンド配信を11月8日～12月6日に行いました。

今回の大会テーマは、「困難を乗り越えて、努力して克服すれば青空が望める。絶望してはいけない。」との思いを込めて『雲外蒼天 ～協調、そして融合へ～』と致しました。

医療職の学術大会で、クラスターは絶対あってはならないと強く思いCOVID-19感染対策を行いました。現地会場入口には、非接触型のモニター式体温測定システム、受付時の検温、問診表提出、各発表会場入口にはアルコール、マイクにディスプレイのカバー、セッション毎の清拭、換気の徹底、会場内は定員の半数以下として運営を行いました。その結果、TCRT2021からのクラスター発生はありません。

今大会は、大会参加登録をカード決済による事前登録、オンデマンド配信、Virtual機器展示、Virtual空間での懇親会など、様々な新しい試みを行いました。会員の皆様には、ご不便をお掛けしたかと思いますが、感染対策のためとご理解いただければと思います。また、セミナー、企業展示に協賛をいただきました企業の皆様には改めて御礼を申し上げます。

大会要項

- 会 期 : 令和3年10月30日(土)～ 10月31日(日)
オンデマンド配信(令和3年11月8日(月)～ 12月6日(月))
- 会 場 : 福島県立医科大学保健科学部 福島駅前キャンパス 及び Virtual空間(oVice)
を用いたハイブリット開催
- テ ー マ : 『雲外蒼天 ～協調、そして融合へ～』
- 参 加 者 : 475名(会員 424名 非会員 10名 学生: 35名 来賓 6名) 情報交換会: 38名
青森(56)岩手(26)秋田(47)宮城(109)山形(42)福島(153)新潟(30)その他(12)
参加形態別 (現地受付来場者 191名 Web参加(推定)284名)
- 内 容 : ①一般演題発表 73演題 セッション数18
内訳 青森(8)、岩手(5)、秋田(7)、宮城(22)、山形(4)、福島(23)、新潟(4)
②特別講演 1題、シンポジウム 5題、大会長講演 1題、JART企画 6題、JSRT企画 5題
③ランチョンセミナー 2社、ティータイムセミナー 2社
④Virtual企業展示 10社
- 開催協力 : 展示協賛10社 バナー広告協賛 22社 ランチョンセミナー 2社 ティータイムセミナー 2社
寄付 2社
- 広報協力 : 日本放射線技師会各県技師会 日本放射線技術学会